

編集後記

本論叢の第一輯が出されたのは、昭和二十四年十一月十五日であつた。それ以来、本号で一〇〇輯をかぞえる。

第一輯の編輯後記に、この論叢が出されるようになった趣旨について、「各自の立場から自由に物を言う機関がほしいと思つたからに他ならない」と記されているが、その趣旨は、今日に至るまで、受け継がれているものと思われる。

この間、学会に刺激を与えた論文も少なからずあつたであらう。また、この論叢を發表の場として、研究を積み重ねてこられた方々も多くおられたであらう。

本輯は、第一〇〇輯の記念すべき号なので、寄稿された論文は全て載せた。普通は、論文数が多かった場合、あるものを次号に回したり、長い論文については分割して掲載したりするが、今回はその方法をとらなかつた。その結果、大冊のものとなつたが、それは、会員各位の活動のあらわれであり、慶ばしいことと言わねばならない。本論叢の趣旨が、長く受け継がれ、生かされていくことが願われる。